

第2回「相米慎二監督映画祭り」開催記録

第2回 魅力発信、田子に眠る映画監督

相米慎二監督

2015年 8月 29日 (土) 映画祭り

午後1時30分～
青森県田子町
タコピアアザガホール

●13:30 開会 映画上映
●15:00 トークショー
●17:00 閉会

【用いたカップル】
●13:30 開会 映画上映
●15:00 トークショー
●17:00 閉会

【入場整理券を希望の方は】
観覧料を希望の方は
8:15～17:00 (土・日・祝日)
田子町観光協会(田子町) 田子町民会館
電話 0179-20-7127まで、そのほか、各町長・各町民会館、各町民会館、各町民会館に申し込みます。
お一人様一枚まで。
観覧券は8月27日(木)まで。

【入場整理券を希望の方は】
観覧料を希望の方は
8:15～17:00 (土・日・祝日)
田子町観光協会(田子町) 田子町民会館
電話 0179-20-7127まで、そのほか、各町長・各町民会館、各町民会館に申し込みます。
お一人様一枚まで。
観覧券は8月27日(木)まで。

★トークショー
●ゲスト● ●聞き手・進行●

【主催：青森県田子町】
●協賛：田子町観光協会 / 公益財団法人にっくネットワーク / 田子町観光協会 / 映画監督相米慎二を語りつづける ●協力：青森県 ●問い合わせ先：田子町観光協会 TEL 0179-20-7127



たっこまち
【青森県 田子町】

【会場ロビー】

ロビーには、ゆかりの方々から頂戴したメッセージや監督作品のポスターなども飾られ、祭りを盛り上げました。



【トークショー】 相米慎二さんにまつわるたくさんのお話やエピソードが紹介され、来場されたお客様も充分楽しんでいました。



【お墓参り】

映画祭り出演者及び関係者の皆様で相米地区へ赴き、相米慎二さんの眠る墓前で手を合わせました。



【交流会】

映画祭り終了後、「映画監督相米慎二を語りつくす会」が交流会を催し、出演者・関係者とスタッフらが親睦を深めました。



【新聞掲載】

映画祭り開催について、以下のとおり掲載されました。(デーリー東北、東奥日報)

つたえる地域 つながる地域

相米慎二監督映画祭り



翔んだカップルに出演し、当時の様子を振り返る鶴見辰吾さん

初監督作品 300人楽しむ

田子

田子町主催の「第2回相米慎二監督映画祭り」が29日、タプロビアンプラザホールで開かれた。町内外からファン300人が来場、相米さんの初監督作品「翔んだカップル」の上映とトークショーが行われ、同作に出演した俳優の鶴見辰吾さんをゲストに、町ゆかりの名監督による「デビュー作を乗

1980年公開の翔んだカップルは、クラスメートの男女が同じ屋根の下で生活するラブコメディ。鶴見さんとヒロイン栗原ひろ子さんとの微妙な恋愛の駆け引きや青春模様話題を呼んだ。上映会では35年前の2

製作秘話披露

出演の鶴見辰吾さんら



翔んだカップルのポスター(右下)や芸人らのメッセージなど展示物を眺める来場者

が映画デビューだったという鶴見さんは「テレビとは違い、職人集団による気心を感じた。俳優への道を進むきっかけになった」と振り返った。映画プロデューサーの伊地智啓さんは「相米作品は田舎の原風景を取り入れた映像が多い。田子町のような場所が心に残っている。深く影響している」と述べ、鶴見さんがうなずく場面もあった。会場には作品のポスターやゆかりの芸人から寄せられた多くのメッセージが展示され、来場者が興味深く見入っていた。相米さんは盛岡市生まれで、父の正さんが田子町出身。2001年に53歳で死去し、生涯独身だったため同町相米地区にある自家の墓に埋葬、近くに慰霊碑が建立されている。

撮影所で俳優育てた 相米慎二監督しのぶ映画祭

鶴見辰吾さんら魅力語る

第2回「相米慎二監督映画祭り」が8月29日、田子町タプロビアンプラザホールで開かれた。約300人の来場者は、初監督作「翔んだカップル」(1980年)の上映や、主演の俳優・鶴見辰吾さんらによるトークショーを通じて、田子町ゆかりの相米監督の魅力や人柄に触れた。



相米監督(右)の思い出や撮影時のエピソードを語る鶴見辰吾さん(左)と伊地智啓さん

盛岡市生まれの相米監督「『撮影の群れ』など13作品は「セラー服と機関銃」を世に送り出したが、2001年に53歳で死去。生涯

「翔んだカップル」の上映後に開いたトークショーでは、映画監督の榎戸耕史さん、富樫泰之さん、書籍編集者の中村大吉さんが聞き手・進行役となり、鶴見さん、相米作品のプロデューサーを務めた伊地智啓さんが相米監督との思い出や撮影時のエピソードを語った。同作品で映画デビューした鶴見さんは「相米監督は、現場では放任で「やってみろ」としか言わない人だった

たが、導いてくれる感じがした。当時の自分ばかり不足で、もしかしたら自分の演技に納得していなかったかも」と語った。伊地智啓さんは「相米監督は撮影所で俳優を買った。『翔んだ』では撮り直した。また、鶴見さんは主人公が故郷宮崎に帰省したシーンに触れ「田子で風景が似て、新しいものを作るのはこつこつとた〜と実感。原風景だを感じた」と述べ、

(藤本雄大)